

令和2年12月
小名浜高等学校
いわき海星高等学校

「小名浜海星高等学校」校歌について

1 作詞・作曲者

(1) 作詞 齋藤 貢氏 (本名 齋藤 貢一)

いわき市在住、磐城高・茨城大卒。小高商業高・郡山東高校長歴任
県文学賞(1987年)受賞、現代詩人賞(2019年)受賞。いわき市民栄誉
賞受賞(2019年)

(2) 作曲 室伏 正隆氏

東京芸大作曲科卒・同大院修了。現・埼玉県狭山清陵高校教諭
いわき海星野球部の甲子園出場の際、応援楽曲を編曲するなどの縁

2 作詞・作曲の経緯

両校同窓会・PTA等の関係者により、校歌に関する懇談会を開催し、作
詞・作曲者の方々も参加の上で意見交換を重ねた。両校の校歌や伝統、委
員からの要望等も踏まえながら、統合校の歌詞や旋律に反映いただいた。

〈小名浜海星高等学校 校歌 歌詞〉

小名浜海星高等学校校歌

(作詞 齋藤 貢)

(1) 千早振る神白の川へ
集いて学ぶ。

英知の海に 帆をあげ高く
紺碧の空に 虹を架けよう。
清冽なひかりのなかを
風しなやかに 我らは歩む。
小名浜海星
我らが母校。

(2) 大海の金波銀波に
天籟地籟。

まだ見ぬ夢に 憧れ抱き
弛まぬころに 花を咲かそう。
遙かなる北斗をめぐし
気高き真理 求めて進む。
小名浜海星
我らが母校。

(3) 潮騒の白砂青松
三歳を学ぶ。

語らえ友よ 肩組みあつて
武城が丘で 永遠を歌おう。
限りなく晴れたみそらに
いま咲き匂う 万朶の桜。
小名浜海星
我らが母校。

千早振る(勢いが激しいという意。「神」にかかる枕詞、金波銀波(美しく輝いている
波。日の光や月の光で、金色や銀色に美しく輝いている様。天籟(天然に発する響き。
風の鳴る音)地籟(地上に起こるいろいろの響き)万朶(多くの花の枝。多くの花)